

2) しゃ音壁設置工

2)-1 しゃ音壁設置工

1. しゃ音壁材料費

1-1 支柱材料費

支柱の材料費（製作費を含む）は、一般管理費等のみ対象とする。

1-2 遮音板材料費

遮音板の材料費（製品）は、共通仮設費、現場管理費、一般管理費等の対象とする。

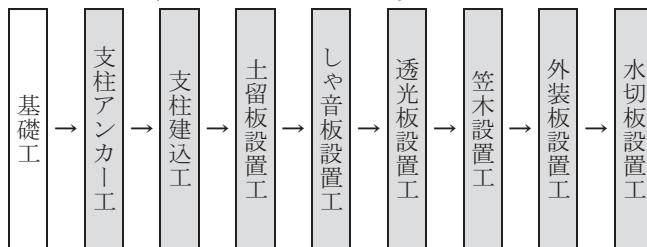
2. 適用範囲

本資料は、しゃ音壁設置工のうち、支柱アンカー工、支柱建込工、しゃ音板・透光板取付工及び土留板・笠木・外装板・水切板取付工で、しゃ音板高さ（下部構造物の高さを含まない）8m 以下に適用する。

なお、しゃ音板は支間が 2m 及び 4m の金属製防音パネルで、支柱の取付方法は付図に示す形式のものとし、支柱の取付形式は、埋設アンカー方式を A 型、穿孔アンカー方式を B 型と分類する。

3. 施工概要

施工フローは、以下のとおりである。



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。必要な工種のみ計上する。

4. 施工歩掛

4-1 支柱アンカー及び支柱建込工（A 型支柱）

埋設アンカー方式による支柱アンカー及び支柱建込歩掛は、次表を標準とする。

表 4.1 支柱アンカー及び支柱建込歩掛（A 型支柱）

(100m 当り)

名称	規格	単位	支柱間隔 2m				支柱間隔 4m			
			支柱アンカー設置		支柱建込		支柱アンカー設置		支柱建込	
			設置高さ		設置高さ		設置高さ		設置高さ	
			4m 以下	8m 以下	4m 以下	8m 以下	4m 以下	8m 以下	4m 以下	8m 以下
土木一般世話役		人	0.21	0.69	1.4	3.6	0.10	0.33	0.70	1.8
鉄骨工		〃	—	—	2.0	5.2	—	—	1.0	2.6
鉄筋工		〃	1.1	3.4	—	—	0.52	1.7	—	—
普通作業員		〃	0.90	2.9	1.9	4.9	0.45	1.5	0.97	2.5
トラック（クレーン装置付）運転	4t 級 吊能力 2.9t	h	—		11.1	23.9	—		5.3	12.2
諸雑費率		%	—		5	4	—		5	4

(注) 1. 高さは、下部構造物等を含めない支柱のみの高さとする。

2. 諸雑費は、インパクトレンチの損料、ラチェットレンチの損耗費及び電力に関する経費等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

4-2 支柱アンカー及び支柱建込工 (B型支柱)

穿孔アンカー方式による支柱アンカー及び支柱建込歩掛は、次表を標準とする。

表 4.2 支柱アンカー及び支柱建込歩掛 (B型支柱) (100m 当り)

名称	規格	単位	支柱間隔 2m		支柱間隔 4m	
			支柱アンカー設置	支柱建込	支柱アンカー設置	支柱建込
			支柱高さ	支柱高さ	支柱高さ	支柱高さ
			4m 以下	4m 以下	4m 以下	4m 以下
土木一般世話役		人	4.7	2.6	2.0	1.3
特殊作業員		〃	10.0	—	4.4	—
鉄骨工		〃	—	3.8	—	1.9
普通作業員		〃	7.0	3.6	3.0	1.8
トラック (クレーン装置付) 運転	4t 級 吊能力 2.9t	h	—	19.1	—	9.5
諸雑費率		%	5	2	7	2

(注) 1. アンカーの設置は、コンクリートアンカーを標準とし、貫通ボルトによる施工の場合は別途考慮する。

2. 高さは、下部構造物等を含めない支柱のみの高さとする。

3. 諸雑費は、支柱アンカーの施工足場の費用、ハンマードリル・インパクトレンチの損料、ラチェットレンチの損耗費及び電力に関する経費等であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

4-3 しゃ音板・透光板取付工

しゃ音板・透光板取付歩掛は、次表を標準とする。

表 4.3 しゃ音板・透光板取付歩掛 (100m² 当り)

名称	規格	単位	しゃ音板		透光板	
			設置高さ		設置高さ	
			4m 以下	8m 以下	4m 以下	8m 以下
土木一般世話役		人	0.56	0.70	0.50	0.57
とび工		〃	1.5	1.8	1.3	1.5
普通作業員		〃	0.91	1.1	0.81	0.93
トラック (クレーン装置付) 運転	4t 級 吊能力 2.9t	h	4.80	6.4	3.9	4.5
高所作業車運転	トラック架装・垂直昇降 プラットホーム型 作業床高 13.2m 積載荷重 1,000kg	〃	—	6.6	—	4.6
諸雑費率		%	5		1	

(注) 1. しゃ音板は、金属製 500×2,000 及び 500×4,000 に適用する。

2. 透光板は、1,000×2,000 及び 1,000×4,000 に適用する。

3. 上表は、シール材及び落下防止具の取付けを含む。

4. 高さは、下部構造物等を含めないしゃ音板及び透光板のみの高さとする。

5. 諸雑費は、ハンマー・ラチェットレンチ・脚立の損耗費、固定金具・シール材等の費用であり、材料費、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

4-4 笠木取付工

笠木を取付ける場合は、次を標準とする。

表 4.4 笠木取付歩掛 (100m 当り)

名称	規格	単位	設置高さ	
			4m 以下	8m 以下
土木一般世話役		人	0.05	
特殊作業員		〃	0.08	
普通作業員		〃	0.21	
高所作業車運転	トラック架装・垂直昇降 プラットフォーム型 作業床高 13.2m 積載荷重 1,000kg	h	—	0.50
諸雑費率		%	4	

(注) 諸雑費は、脚立及びインパクトレンチの損料、電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

4-5 水切板取付工

水切板 (幅 70~330mm) の取付歩掛は、次表を標準とする。

表 4.5 水切板取付歩掛 (100m 当り)

名称	規格	単位	設置高さ	
			4m 以下	8m 以下
土木一般世話役		人	0.4	
特殊作業員		〃	0.5	
普通作業員		〃	1.7	
高所作業車運転	トラック架装・垂直昇降 プラットフォーム型 作業床高 13.2m 積載荷重 1,000kg	h	—	11.0
諸雑費率		%	10	

(注) 1. 水切板の取付けは、コンクリートアンカー施工を含む。
2. 諸雑費は、ハンマードリル、ハンマーの損料、電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

4-6 外装板取付工

外装板の取付歩掛は、次表を標準とする。

表 4.6 外装板取付歩掛 (100m² 当り)

名称	規格	単位	設置高さ	
			4m 以下	8m 以下
土木一般世話役		人	0.66	
とび工		〃	2.3	
普通作業員		〃	2.1	
トラック (クレーン装置付) 運転	4t 級 吊能力 2.9t	h	8.0	
高所作業車運転	トラック架装・垂直昇降 プラットフォーム型 作業床高 13.2m 積載荷重 1,000kg	〃	—	7.7
諸雑費率		%	4	

(注) 諸雑費は、脚立及びインパクトレンチの損料、電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

4-7 土留板取付工

土留板の取付歩掛は、次表を標準とする。

表 4.7 土留板取付歩掛

(100m² 当り)

名称	規格	単位	設置高さ	
			4m 以下	8m 以下
土木一般世話役		人	1.3	1.9
とび工		〃	2.9	4.3
普通作業員		〃	2.6	3.8
トラック (クレーン装置付) 運転	4t 級 吊能力 2.9t	h	4.3	5.8
高所作業車運転	トラック架装・垂直昇降 プラットホーム型 作業床高 13.2m 積載荷重 1,000kg	〃	—	5.8
諸雑费率		%	4	11

(注) 1. 諸雑費は、土留板固定用モルタル等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

2. 設置高さは、しゃ音板及び透光板を含めた全体の高さとする。

5. 単価表

(1) 支柱材料費 10t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
支柱材料費		t	10	
諸雑費		式	1	
計				

(2) 支柱アンカー設置 (形式) 100m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人		表 4.1, 4.2
特殊作業員		〃		表 4.2
鉄筋工		〃		表 4.1
普通作業員		〃		表 4.1, 4.2
アンカー		本		必要数量計上
諸雑費		式	1	表 4.1, 4.2
計				

(3) 支柱建込 (形式) 100m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人		表 4.1, 4.2
鉄骨工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
トラック(クレーン 装置付)運転	4t 級 吊能力 2.9t	h		〃 機械損料
諸雑費		式	1	表 4.1, 4.2
計				

(注) 支柱の価格は、別途計上する。

(4) しゃ音板・透光板設置 (規格) 100m² 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人		表 4.3
とび工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
トラック(クレーン装置付)運転	4t 級 吊能力 2.9t	h		〃 機械損料
高所作業車運転	トラック架装・垂直昇降・プラットホーム型 作業床高 13.2m, 積載荷重 1,000kg	〃		表 4.3 必要により計上 機械損料
しゃ音板・透光板		枚 (m ²)		必要数量計上
諸雑費		式	1	表 4.3
計				

(5) 笠木取付 100m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人		表 4.4
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
高所作業車運転	トラック架装・垂直昇降・プラットホーム型 作業床高 13.2m, 積載荷重 1,000kg	h		表 4.4 必要により計上 機械損料
笠木		m (本)		必要数量計上
諸雑費		式	1	表 4.4
計				

(6) 水切板取付 100m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人		表 4.5
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
高所作業車運転	トラック架装・垂直昇降・プラットホーム型 作業床高 13.2m, 積載荷重 1,000kg	h		表 4.5 必要により計上 機械損料
水切板		m (本)		必要数量計上
諸雑費		式	1	表 4.5
計				

(7) 外装板取付 100m² 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人		表 4.6
とび工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
トラック(クレーン装置付)運転	4t 級 吊能力 2.9t	h		〃 機械損料
高所作業車運転	トラック架装・垂直昇降・プラットホーム型 作業床高 13.2m, 積載荷重 1,000kg	〃		表 4.6 必要により計上 機械損料
外装板		枚 (m ²)		必要数量計上
諸雑費		式	1	表 4.6
計				

(8) 土留板取付 100m2 当り単価表

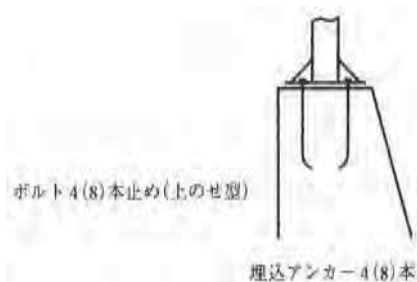
名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人		表 4.7
とび工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
トラック(クレーン装置付)運転	4t 級 吊能力 2.9t	h		〃 機械損料
高所作業車運転	トラック架装・垂直昇降・プラットホーム型 作業床高 13.2m, 載荷重 1,000kg	〃		表 4.7 必要により計上 機械損料
土留板		枚		必要数量計上
諸雑費		式	1	表 4.7
計				

(9) 機械運転単価表

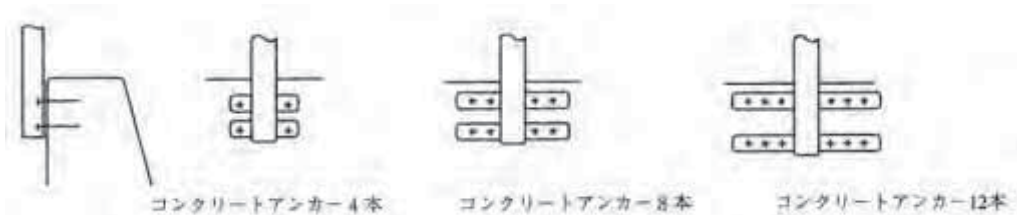
機械名	規格	適用単価表	指定事項
トラック(クレーン装置付)	4t 級 吊能力 2.9t	機-1	
高所作業車	トラック架装・垂直昇降・プラットホーム型 作業床高 13.2m, 積載荷重 1,000kg	機-1	

6. 支柱取付形式区分 (付図)

(1) A 型

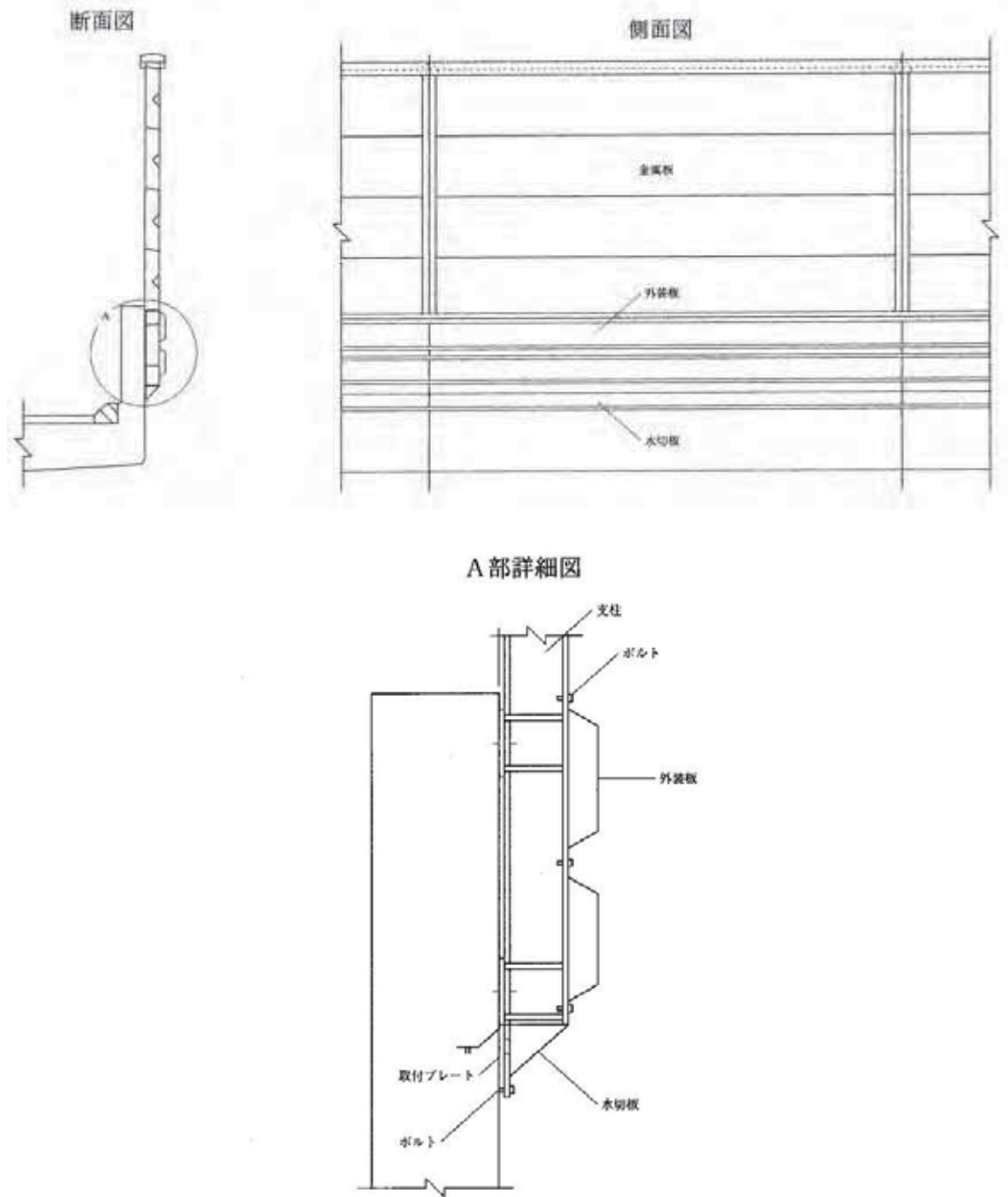


(2) B 型



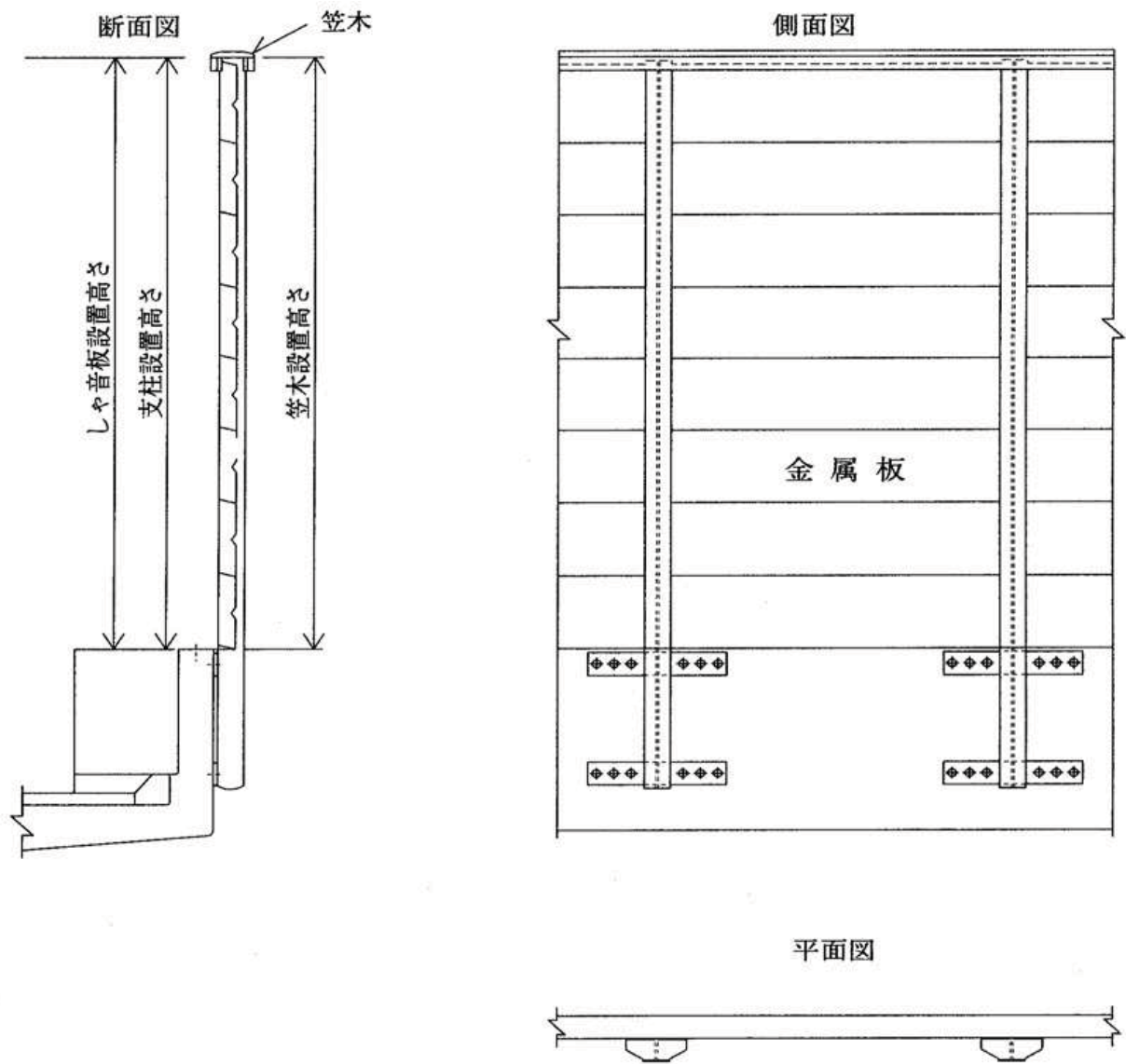
7. 参考資料

(1) 水切板取付工概念図



※水切板の設置高さは、施工基面からとする。

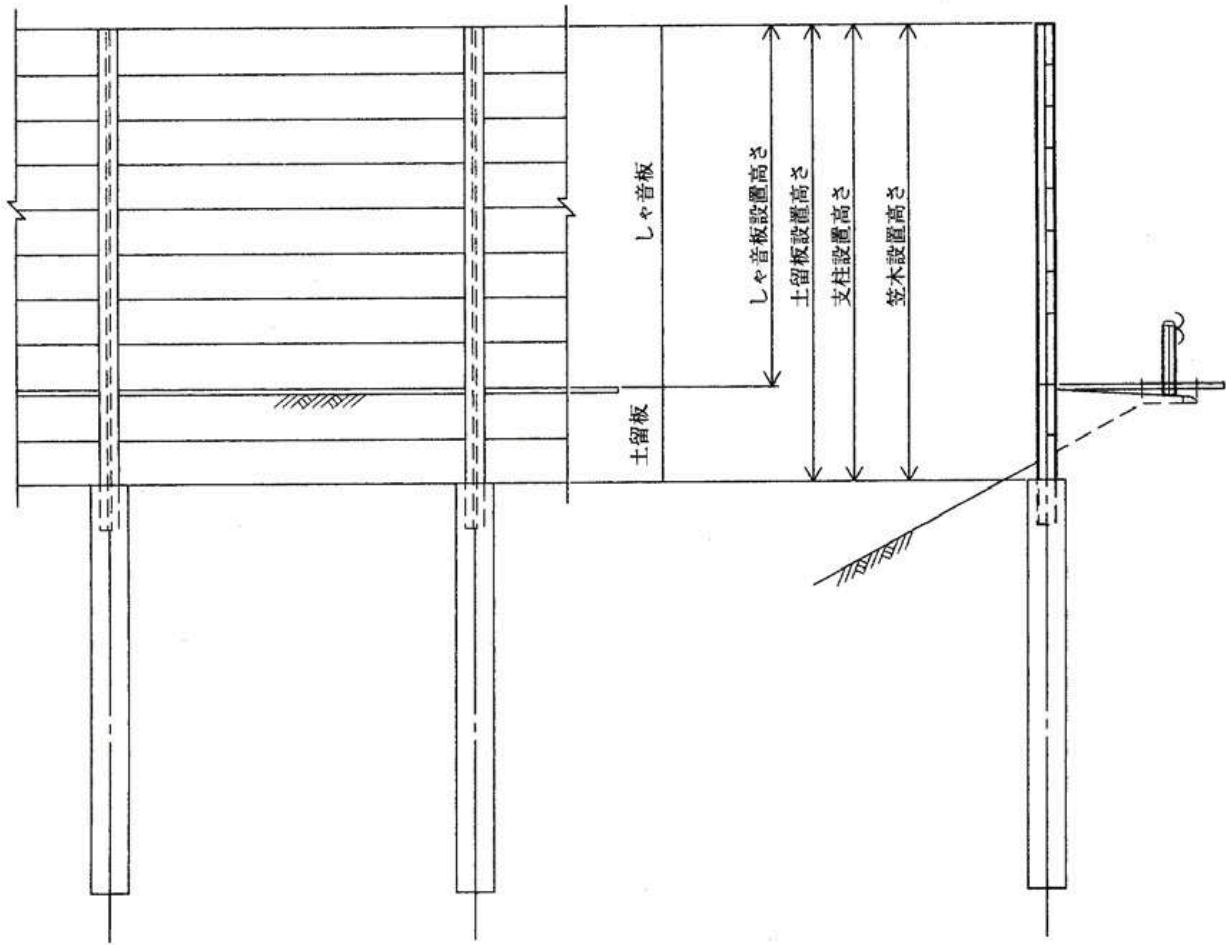
(2) 笠木取付工概念図



(3) 土留板取付工概念図

側面図

断面図

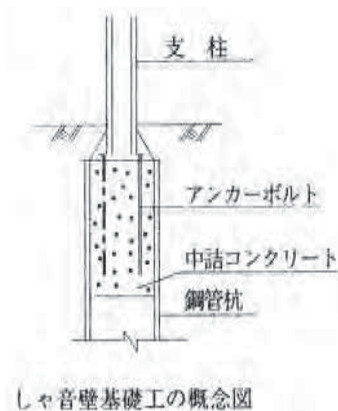


2)-2 基礎杭打工 (しゃ音壁)

1. 適用範囲

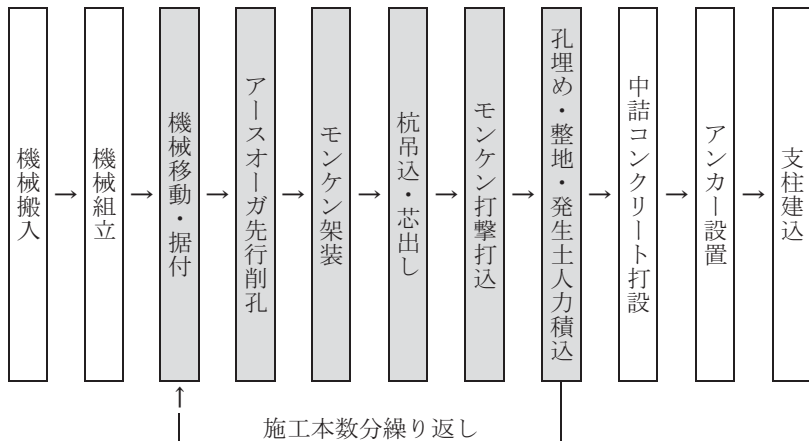
本資料は、しゃ音壁基礎工で鋼管杭を打込む場合に適用する。

なお、適用土質は、土砂 (砂, 砂質土, レキ質土, 粘性土) とし、最大 N 値は 20 以下とする。



2. 施工概要

施工フローは、下記のとおりとする。



- (注) 1. 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。
 2. 孔埋め、整地、残土 (発生土) の積込に係る費用は諸雑費に含むものとし、残土 (発生土) の運搬費と処分費は別途計上する。

3. 機種の選定

鋼管杭打込み機械・規格は、次表を標準とする。

表 3.1 機種の選定

杭条件	機械名	規格
杭長 3m 以上 5m 以下 かつ 杭径 400mm 以下	ラフテレーンクレーン装着式 アースオーガ (油圧式) 及びモンケン架装	オーガトルク 22kN-m ベースマシン吊り能力 16t モンケン 1.2t リーダ長さ 16.4m
杭長 5m を超え 8m 以下 又は 杭径 400mm 以上		オーガトルク 35kN-m ベースマシン吊り能力 25t モンケン 2.0t リーダ長さ 17.5m

4. 編成人員

鋼管杭打込（ラフテレーンクレーン装着式アースオーガ（油圧式）及びモンケン架装）の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 4.1 日当り編成人員 (人)

土木一般世話役	とび工	特殊作業員	普通作業員
1	1	1	1

5. 日当り施工量

鋼管杭打込みの日当り施工量は、次表を標準とする。

表 5.1 日当り施工量 (D) (本/日)

杭長 (m)	3.0 以下	4.0 以下	5.0 以下	6.0 以下	7.0 以下	8.0 以下
打込み本数	13	12	11	10	8	6

6. 諸雑費

諸雑費は、孔埋め、整地、残土（発生土）の人力積込等の費用であり、労務費、運転経費及び機械損料の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 6.1 諸雑费率 (%)

諸雑费率	9
------	---

7. 中詰めコンクリート

中詰めコンクリート打設作業については、「第 II 編 第 4 章 1) コンクリート工」人力打設無筋構造物による。

8. アンカー設置及び支柱建込

アンカー設置及び支柱建込作業については、「第 IV 編 第 2 章 2)-1 しゃ音壁設置工」支柱アンカー設置及び支柱建込による。

9. 鋼管杭の現場取卸

鋼管杭の現場取卸作業については、「第 II 編 第 2 章 22) 現場取卸費」による。

10. 単価表

(1) ラフテレーンクレーン装着式アースオーガ（油圧式）及びモンケン架装による鋼管杭 10 本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	$\frac{10}{D} \times 1$	表 4.1, 5.1
とび工		〃	$\frac{10}{D} \times 1$	〃
特殊作業員		〃	$\frac{10}{D} \times 1$	〃
普通作業員		〃	$\frac{10}{D} \times 1$	〃
ラフテレーンクレーン装着式アースオーガ（油圧式）及びモンケン架装		h	$\frac{10}{D} \times T$	機械損料
鋼管杭		本	10	
諸雑費		式	1	表 6.1
計				

(注) D : 1 日当り施工本数 (本/日)

T : ラフテレーンクレーン装着式アースオーガ（油圧式）及びモンケン架装運転日当り運転時間

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
ラフテレーンクレーン装着式アースオーガ（油圧式）及びモンケン架装	オーガトルク 22kN-m ベースマシン吊り能力 16t モンケン 1.2t リーダ長さ 16.4m	機-1	
ラフテレーンクレーン装着式アースオーガ（油圧式）及びモンケン架装	オーガトルク 35kN-m ベースマシン吊り能力 25t モンケン 2.0t リーダ長さ 17.5m	機-1	

3) 路側工

3)-1 路側工（据付け）

1. 適用範囲

本資料は、プレキャスト製品による歩車道境界ブロック及び地先境界ブロックの据付作業に適用する。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 歩車道境界ブロック

製品長 2m 以下の場合

1-1-2 地先境界ブロック

製品長 2m 以下の場合

1-2 適用できない範囲

1-2-1 歩車道境界ブロック

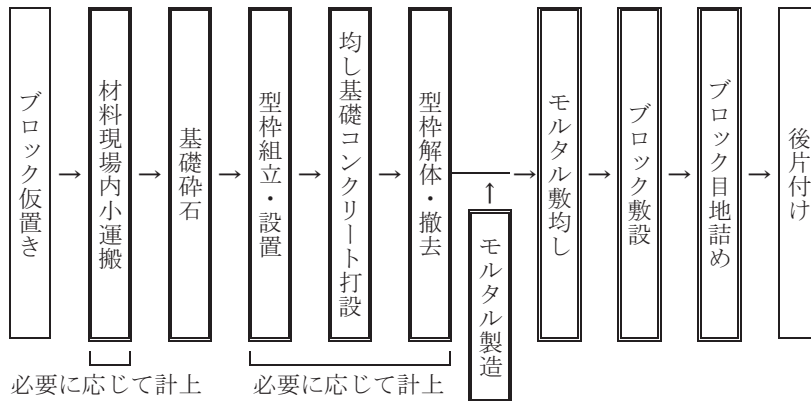
製品長が 2m を超える場合

1-2-2 地先境界ブロック

製品長が 2m を超える場合

2. 施工概要

施工フローは下記を標準とする。



(注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分である。

2. 基礎碎石の有無に関わらず適用できる。

3. 施工パッケージ

3-1 歩車道境界ブロック【SPK14040170】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.1.1 歩車道境界ブロック 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

作業区分	ブロック規格	均し基礎コンクリートの有無	養生工の種類	現場内小運搬の有無		
設置	A 種 (150/170×200×600)	無し	-	-		
		有り	養生なし	無し 有り		
			一般養生	無し 有り		
			特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し 有り		
			B 種 (180/205×250×600)	無し	-	-
				有り	養生なし	無し 有り
	一般養生				無し 有り	
	特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し 有り				
	C 種 (180/210×300×600)	無し			-	-
		有り			養生なし	無し 有り
			一般養生		無し 有り	
			特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し 有り		
			各種 (600mm 以下, 50kg 未満)	無し	-	-
				有り	養生なし	無し 有り
	一般養生				無し 有り	
	特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し 有り				
	各種 (2000mm 以下, 50kg 以上 550kg 未満)	無し			-	-
		有り			養生なし	無し 有り
			一般養生		無し 有り	
			特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し 有り		

表 3.1.2 歩車道境界ブロック 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

作業区分	ブロック規格	均し基礎コンクリートの有無	養生工の種類	現場内小運搬の有無		
再利用 設置	A 種 (150/170×200×600)	無し	-	-		
		有り	養生なし	無し 有り		
			一般養生	無し 有り		
			特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し 有り		
			B 種 (180/205×250×600)	無し	-	-
				有り	養生なし	無し 有り
	一般養生				無し 有り	
	特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し 有り				
	C 種 (180/210×300×600)	無し			-	-
		有り			養生なし	無し 有り
			一般養生		無し 有り	
			特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し 有り		
			各種 (600mm 以下, 50kg 未満)	無し	-	-
				有り	養生なし	無し 有り
	一般養生				無し 有り	
	特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し 有り				
	各種 (2000mm 以下, 50kg 以上 550kg 未満)	無し			-	-
		有り			養生なし	無し 有り
			一般養生		無し 有り	
			特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し 有り		

- (注) 1. 上表は、歩車道境界ブロック（道路の車道と歩道等を分離するために用いる）の基礎材、基礎コンクリート型枠、基礎コンクリート、プレキャストブロックの設置、コンクリート現場内小運搬の他、敷モルタル、目地モルタル、器具等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 作業区分が「再利用設置」の場合、注 1 の歩車道境界ブロック本体の製品費は含まない費用とする。
3. ブロック規格で「各種」を選択した場合、ブロックは「m」当たりの単価とする。

$$\text{ブロック m 当たり単価} = \text{ブロック単価 (円/個)} \times \text{使用量 (個/100m)} / 100 \text{ (m)}$$
4. 夜間施工の場合は基礎コンクリートは無しとし、「第 II 編 第 4 章 1) コンクリート工」よりコンクリートを別途計上する

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.2 歩車道境界ブロック 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ[クローラ型・排出ガス対策型(第2次基準値)]山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	ブロック工	
	R2	普通作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	型枠工	均し基礎コンクリート有りの場合
特殊作業員		均し基礎コンクリート無しの場合	
材料	Z1	歩車道境界ブロック B 種(180/205×250×600)	設置の場合
	Z2	生コンクリート 高炉 18-8-25(20) W/C60%	均し基礎コンクリート有りの場合
	Z3	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z4	再生クラッシャーラン RC-40	
市場単価	S	—	

3-2 地先境界ブロック【SPK14040171】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.3.1 地先境界ブロック 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

作業区分	ブロック規格	均し基礎コンクリートの有無	養生工の種類	現場内小運搬の有無	
設置	A 種 (120×120×600)	無し	-	-	
		有り	養生なし	無し 有り	
			一般養生	無し 有り	
			特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し	有り
				有り	有り
			B 種 (150×120×600)	無し	-
	有り			養生なし	無し 有り
		一般養生		無し 有り	
		特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)		無し	有り
				有り	有り
		C 種 (150×150×600)		無し	-
			有り	養生なし	無し 有り
	一般養生			無し 有り	
	特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)			無し	有り
				有り	有り
	各種 (600mm 以下, 50kg 未満)			無し	-
		有り		養生なし	無し 有り
			一般養生	無し 有り	
			特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し	有り
				有り	有り
各種 (2000mm 以下, 50kg 以上 550kg 未満)			無し	-	-
	有り		養生なし	無し 有り	
		一般養生	無し 有り		
		特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し	有り	
			有り	有り	

表 3.3.2 地先境界ブロック 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

作業区分	ブロック規格	均し基礎コンクリートの有無	養生工の種類	現場内小運搬の有無		
再利用設置	A 種 (120×120×600)	無し	-	-		
		有り	養生なし	無し 有り		
			一般養生	無し 有り		
			特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し		
				有り		
			B 種 (150×120×600)	無し	-	-
				有り	養生なし	無し 有り
		一般養生			無し 有り	
		特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)			無し	
	有り					
	C 種 (150×150×600)	無し		-	-	
		有り	養生なし	無し 有り		
			一般養生	無し 有り		
			特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し		
		有り				
		各種 (600mm 以下, 50kg 未満)	無し	-	-	
	有り		養生なし	無し 有り		
			一般養生	無し 有り		
			特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し		
	有り					
	各種 (2000mm 以下, 50kg 以上 550kg 未満)		無し	-	-	
		有り	養生なし	無し 有り		
			一般養生	無し 有り		
			特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し		
有り						

- (注) 1. 上表は、地先境界ブロック（地先境界に道路の舗装止めとして用いる）の基礎材、均し型枠、基礎コンクリート、プレキャストブロックの設置、コンクリート現場内小運搬の他、敷モルタル、目地モルタル、器具等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 作業区分が「再利用設置」の場合、注 1 の地先境界ブロック本体の製品費は含まない費用とする。
3. ブロック規格で「各種」を選択した場合、ブロックは、m 当たりの単価とする。
 ブロック m 当たり単価＝ブロック単価（円/個）×使用量（個/100m）/100（m）
4. 夜間施工の場合は基礎コンクリートは無しとし、「第 II 編 第 4 章 1) コンクリート工」よりコンクリートを別途計上する

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.4 地先境界ブロック 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ[クローラ型・排出ガス対策型(第2次基準値)]山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	ブロック工	
	R2	普通作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	型枠工	均し基礎コンクリート有りの場合
特殊作業員		均し基礎コンクリート無しの場合	
材料	Z1	地先境界ブロック A 種(120×120×600)	設置の場合
	Z2	生コンクリート 高炉 18-8-25(20) W/C60%	均し基礎コンクリート有りの場合
	Z3	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z4	再生クラッシュラン RC-40	
市場単価	S	—	

3)-2 路側工（取外し）

1. 適用範囲

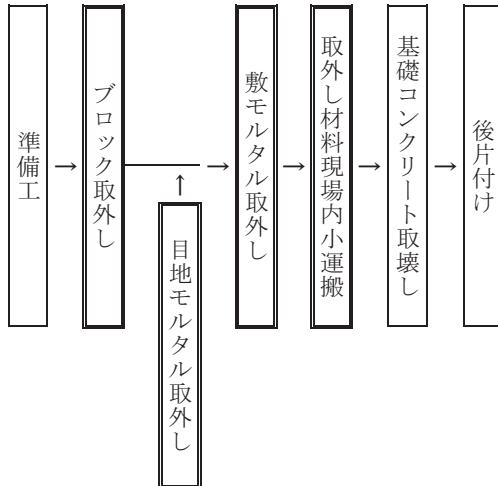
本資料は、プレキャスト製品による歩車道境界ブロック及び地先境界ブロックの取外し作業に適用する。

1-1 適用できる範囲

(1) 処分又は再利用を目的としたブロック（長さ 800mm/個以下，質量 105kg/個未満）の撤去の場合

2. 施工概要

施工フローは下記を標準とする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. ブロック，モルタル処分費及び現場搬出の費用は，別途計上する。

3. 施工パッケージ

3-1 歩車道境界ブロック撤去, 地先境界ブロック撤去
 【SPK14040172】 【SPK14040173】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.1 歩車道境界ブロック撤去, 地先境界ブロック撤去 積算条件区分一覧

(積算単位 : m)

再利用率区分
処分
再利用

- (注) 1. 上表は、プレキャスト製品による歩車道境界ブロック, または地先境界ブロックの撤去, 敷モルタル・目地モルタルの取外し, 集積, 現場内小運搬等, その施工に必要な全ての機械・労務・材料費 (損料等を含む) を含む。
2. 施工数量は直線部, 曲線部及び片面用, 両面用, 乗入れ, すりつけ用ブロックを含んだ施工延長である。
3. 基礎コンクリートのとりこわしは, 別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.2 歩車道境界ブロック撤去 地先境界ブロック撤去 代表機労材規格一覧

撤去区分	項目	代表機労材規格	備考	
撤去	機械	K1 小型バックホウ[クローラ型・超小旋回型・排出ガス対策型 (第 1 次基準値)]山積 0.22m ³ (平積 0.16m ³)	賃料	
		K2 -		
		K3 -		
	労務	R1 普通作業員		
		R2 土木一般世話役		
		R3 運転手 (特殊)		
		R4 ブロック工	再利用区分が再利用の場合	
	材料	Z1 軽油 1.2 号 パトロール給油		
		Z2 -		
		Z3 -		
		Z4 -		
	市場単価	S	-	

4) 特殊ブロック設置工

1. 適用範囲

本資料は、ブロック規格が 30cm×30cm 及び 40cm×40cm の平板ブロック（透水性ブロック含む）及び視覚障害者誘導用ブロック（点状ブロック、線状ブロック）設置・撤去に適用する。ただし、舗装版等のとりこわし、切断作業は含まない。

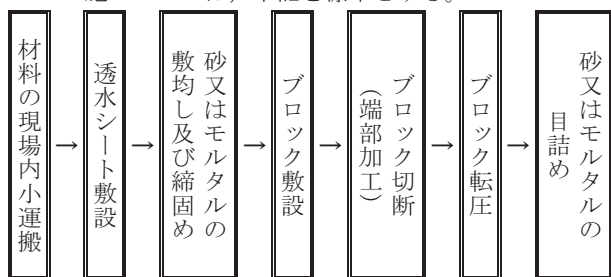
1-1 適用できる範囲

- (1) 特殊ブロック設置（材料込みの新設設置）
- (2) 再利用設置の場合（設置手間のみの流用品・支給品等使用）
- (3) 撤去のみの場合

2. 施工概要

2-1 施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. 歩道部の路盤施工は、必要に応じて別途計上する。
 3. 透水シート敷設の有無にかかわらず本施工パッケージを適用出来る。

3. 施工パッケージ

3-1 特殊ブロック舗装【SPK14040174】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.1 特殊ブロック舗装 積算条件区分一覧 (積算単位：m²)

作業区分	ブロック規格
設置	30cm×30cm
	40cm×40cm
撤去	—

- (注) 1. 設置の場合は、特殊ブロックの設置、敷材料敷均し・締め、敷均し材料費（敷砂又は敷モルタル）、転圧及び目地材の設置、目地材料費（目地砂又は目地モルタル）、後片付け労務、透水シート設置、透水シート材料、ブロック切断機、振動コンパクタ、一輪車、棧木、ほうき、スコップ、コテ、ハンマー等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 撤去の場合は、特殊ブロックの撤去に必要な全ての機械・労務費（損料等を含む）を含む。
3. 資材の運搬距離 30m 程度の人力による現場内小運搬を含む。
4. ブロックの切断ロスを含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.2 特殊ブロック舗装 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K1 —	
	K2 —	
	K3 —	
労務	R1 ブロック工	
	R2 普通作業員	
	R3 土木一般世話役	
	R4 特殊作業員	
材料	Z1 特殊ブロック 研磨平板 30cm×30cm×6cm 特殊ブロック 研磨平板 40cm×40cm×6cm	撤去は除く
	Z2 —	
	Z3 —	
	Z4 —	
市場単価	S —	

5) 組立歩道工

1. 適用範囲

本資料は、プレキャスト床版の支柱式（斜柱を含む）又は片持式組立歩道及び現場打設コンクリート床版の支柱式（斜柱を含む）組立歩道の組立・据付作業に適用する。

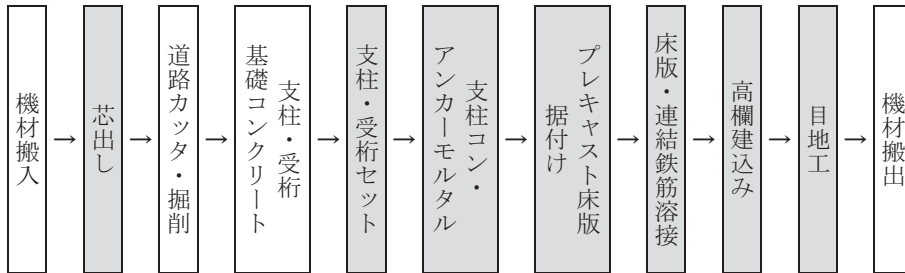
2. 施工概要

2-1 施工フロー

施工フローは下記を標準とする。

(1) プレキャスト床版

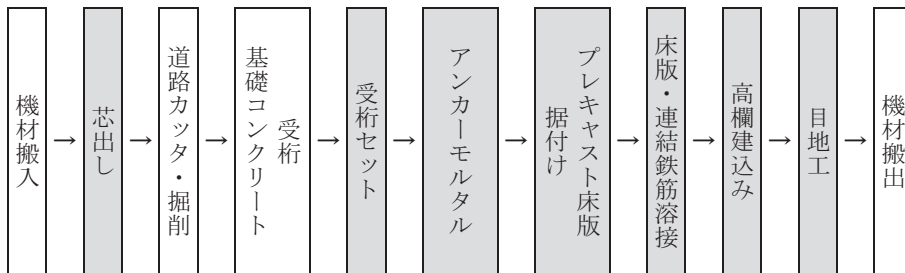
(支柱式の場合)



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

(片持式の場合)

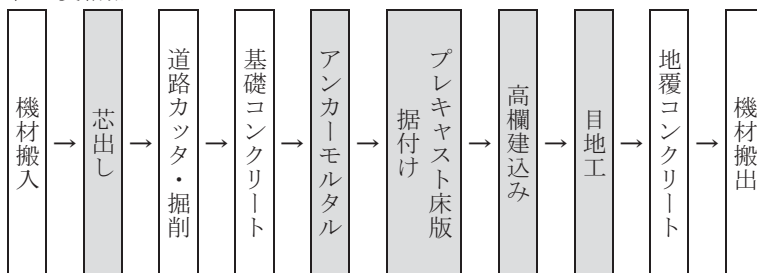
受桁有り



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

(片持式の場合)

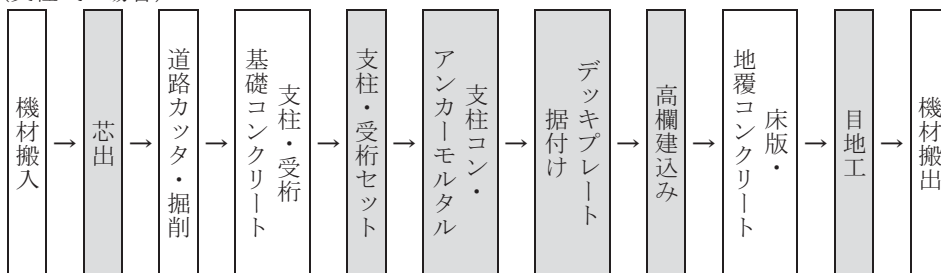
支柱・受桁無し



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

(2) 現場打設コンクリート床版

(支柱式の場合)



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

3. 施工歩掛

3-1 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表 3.1 機種の選定

機械名	規格	摘要
トラック	クレーン装置付 4t 積 2.9t 吊	

(注) 現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮するものとする。

3-2 施工歩掛

組立歩道工の 10m 当り歩掛は、次表を標準とする。

表 3.2 組立歩道工の施工歩掛

(10m 当り)

形式区分	床版形式	支柱形式	受桁形式	支柱 (受桁) 間隔	名称	土木一 般世話 役	特殊作 業員	普通作 業員	トラック 運転	諸雑 費率
					単位 幅員	人	人	人	h	%
支柱式	プレキャストコ ンクリート製	鋼製		3m	1.0m	0.6	1.5	1.8	1.0	4
		プレキャストコン クリート製又は鋼 製	1.5m		0.7	1.7	2.0	1.3		
			2.0m		0.8	1.9	2.2	1.6		
			2.5m		0.9	2.1	2.4	1.9		
プレキャストコンクリート製		5m	2.0m	0.8	1.8	2.2	1.4	3		
(鋼製受桁形式) 片持式	プレキャストコ ンクリート製	—	鋼製	3m	1.0m	0.6	1.5	1.8	1.0	4
					1.5m	0.7	1.7	2.0	1.3	
					2.0m	0.8	1.9	2.2	1.6	
片持式	プレキャストコ ンクリート製	—	—	—	1.5m	0.5	0.9	1.1	2.0	1
					2.0m	0.6	1.1	1.3	2.3	
支柱式	現場打	鋼製		3m	1.5m	0.8	1.7	1.9	0.2	3
					2.0m	0.9	1.9	2.1	0.5	

- (注) 1. 歩掛には、各部材の 30m 程度の現場内小運搬、芯出し、桁及び支柱の組立、デッキプレート及び鉄筋取付け（現場打床版の場合）、床版設置（プレキャスト床版の場合）、高欄取付けを含む。
 2. 支柱等の基礎掘削及びコンクリート打設、現場打床版のコンクリート打設、縁石の設置及び現場塗装は必要に応じて別途積算する。
 3. 組立用足場が必要な場合は、別途計上する。
 4. 諸雑費は、目地材、目地モルタル、アンカーモルタル、溶接材、電気溶接機損料の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 5. 片持式（鋼製受桁形式）の幅員は、床版幅とする。

3-3 作業別施工歩掛

表 3.2 の作業内容毎の組立歩道工の 10m 当り歩掛は、次表を標準とする。

表 3.3 作業内容毎の組立歩道工の施工歩掛 (10m 当り)

形式区分	床版形式	支柱形式	受桁形式	支柱 (受桁) 間隔	名称		土木一 般世話 役 人	特殊作 業員 人	普通作 業員 人	トラック 運転 h	諸雑 費率 %
					幅員	作業内容					
支柱式	プレキャストコ ンクリート製	鋼製		3m	1.0m	支柱受桁 床版据付	0.4	1.2	1.3	1.0	4
		プレキャストコ ンクリート製 又は鋼 製	高欄据付			0.2	0.3	0.5	—		
					1.5m	支柱受桁 床版据付	0.5	1.4	1.5	1.3	
		高欄据付	0.2			0.3	0.5	—			
		2.0m	支柱受桁 床版据付		0.6	1.6	1.7	1.6			
			高欄据付		0.2	0.3	0.5	—			
	2.5m	支柱受桁 床版据付	0.7	1.8	1.9	1.9					
		高欄据付	0.2	0.3	0.5	—					
	プレキャストコンクリート製		5m	2.0m	支柱受桁 床版据付	0.6	1.5	1.7	1.4	3	
					高欄据付	0.2	0.3	0.5	—		
(鋼製受桁形式) 片持式	プレキャストコ ンクリート製	—	鋼製	3m	1.0m	支柱受桁 床版据付	0.4	1.2	1.3	1.0	4
						高欄据付	0.2	0.3	0.5	—	
					1.5m	支柱受桁 床版据付	0.5	1.4	1.5	1.3	
						高欄据付	0.2	0.3	0.5	—	
					2.0m	支柱受桁 床版据付	0.6	1.6	1.7	1.6	
						高欄据付	0.2	0.3	0.5	—	
片持式	プレキャストコ ンクリート製	—	—	—	1.5m	支柱受桁 床版据付	0.3	0.6	0.6	2.0	1
						高欄据付	0.2	0.3	0.5	—	
					2.0m	支柱受桁 床版据付	0.4	0.8	0.8	2.3	
						高欄据付	0.2	0.3	0.5	—	
支柱式	現場打	鋼製	—	3m	1.5m	支柱受桁 床版据付	0.6	1.4	1.4	0.2	3
						高欄据付	0.2	0.3	0.5	—	
					2.0m	支柱受桁 床版据付	0.7	1.6	1.6	0.5	
						高欄据付	0.2	0.3	0.5	—	

(注) 1. 歩掛には、各部材の 30m 程度の現場内小運搬、芯出しを含む。

なお、床版が現場打の場合は、デッキプレート及び鉄筋の取り付けは、支柱・受桁・床版取付
けに含む。

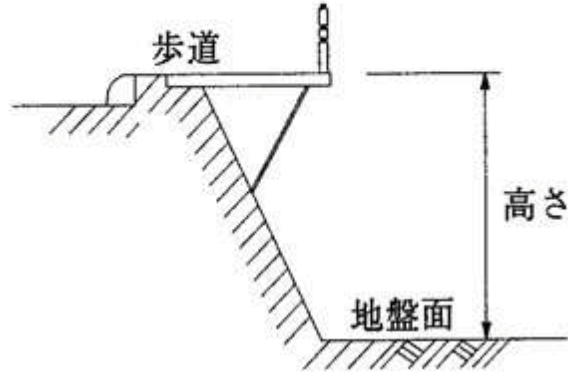
- 支柱等の基礎掘削及びコンクリート打設、現場打床版のコンクリート打設、縁石の設置及び現場塗装は、必要に応じて別途積算する。
- 組立用足場が必要な場合は、別途計上する。
- 諸雑費は、目地材、目地モルタル、アンカーモルタル、溶接材及び電気溶接機損料の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計に上表の率を上限として計上する。
- 片持式（鋼製受桁形式）の幅員は、床版幅とする。

3-4 組立用足場

組立用足場の積算は次のとおりとする。

- (1) 足場は、原則として高さ（地盤面より床版までの高さ）が 2m 以上の場合に計上する。
- (2) 足場工の積算は、「第 II 編 第 5 章 9)-1 足場工」による。
- (3) 足場は、単管傾斜足場を標準とする。

(参考図)



4. 単価表

(1) 組立歩道工 10m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人		表 3.2 又は表 3.3
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
組立歩道部材		m	10	
トラック運転	(クレーン装置付) 4t 積 2.9t 吊	h		表 3.2 又は表 3.3
諸雑費		式	1	〃
計 【S3020013】				

(注) 床版形式が現場打の場合は、床版コンクリート打設費を別途計上する。

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
トラック	(クレーン装置付) 4t 積 2.9t 吊	機-1	

6) 橋梁付属施設設置工

1. 適用範囲

本資料は、施工パッケージによる橋梁付属施設設置工に適用する。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 排水樹

- (1) 橋梁、シェッドの排水樹（20kg/個以上～110kg/個以下）を設置する場合

1-1-2 橋名板取付

- (1) 親柱及び高欄に橋名板（200mm×800mm 以下）を設置する場合

1-1-3 橋梁用高欄

- (1) 橋梁用高欄（鋼製・ダクタイル製）を設置、再利用設置する場合

1-1-4 飾り高欄

- (1) 壁式防護高欄上につける飾り高欄を設置する場合

1-2 適用できない範囲

1-2-1 排水樹

- (1) 鋼床版を同時に施工する場合

1-2-2 橋梁用高欄

- (1) 橋梁用ガードレール高欄を設置する場合
- (2) 側道橋用高欄を設置する場合

2. 施工パッケージ

2-1 排水樹【SPK14040175】

(1) 条件区分

排水樹における積算条件区分はない。

積算単位は「箇所」とする。

(注) 橋梁、シェッドの排水樹の設置、現場内小運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等含む）を含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 2.1 排水樹 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	橋梁用排水樹 網桁用 A タイプ 首下 265 FC250 本体	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

2-2 橋名板取付【SPK14040176】

(1) 条件区分

橋名板取付における積算条件区分はない。

積算単位は「箇所」とする。

(注) 1. 現場内小運搬等、橋名板取付に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等含む）を含む。ただし、取付材料（ボルト等）は含まない。

2. 取付ボルト等の材料費は必要により別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 2.2 橋名板取付 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	銘板 300×200×13	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

2-3 橋梁用高欄【SPK14040177】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 2.3 橋梁用高欄 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

作業区分	設置方式
設置	組立式
	一体式
再利用設置	組立式
	一体式

(注) 1. 設置の場合（材料込みの新設置）

現場内小運搬等、橋梁用高欄の設置に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等含む）を含む。ただし、橋梁用高欄一体式（材料費）は含まない。

2. 再利用設置の場合（設置手間のみ、材料は流用品）

・上記 1. の設置費のみを含む。（橋梁用高欄組立式・一体式（材料費）は含まない。）

・撤去に要する費用は含まない。

3. 組立式とは、支柱と横枠部を分割出来る市販品。

一体式とは、形鋼等による工場製作品をいう。

4. 橋梁用高欄が一体式の場合の材料費は、m 当たり単価を別途計上する。

5. 基礎は、別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 2.4 橋梁用高欄 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	トラック[クレーン装置付] 4t 積 2.9 t	一体式の場合
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	特殊運転手	一体式の場合
	R4	—	
材料	Z1	高欄（鋼製）B 種丸・横棧型 ビーム数 3 本 高さ 1,000mm スパン 2.0m めっき	組立式の場合
	Z2	軽油 1. 2 号 パトロール給油	一体式の場合
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

2-4 橋梁用高欄一体式（材料費）

(1) 条件区分

橋梁用高欄一体式（材料費）における積算条件区分はない。

積算単位は「m」とする。

2-5 飾り高欄【SPK14040179】

(1) 条件区分

飾り高欄における積算条件区分はない。

積算単位は「m」とする。

- (注) 1. 支柱, レール, 柵の建込み, 据付け, 現場内小運搬, アンカーボルトへの固定等, 飾り高欄設置に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等含む)を含む。ただし, 飾り高欄(材料費)は含まない。
2. 飾り高欄の材料は別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は, 当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 2.5 飾り高欄 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

2-6 飾り高欄(材料費)

(1) 条件区分

飾り高欄(材料費)における積算条件区分はない。

積算単位は「m」とする。

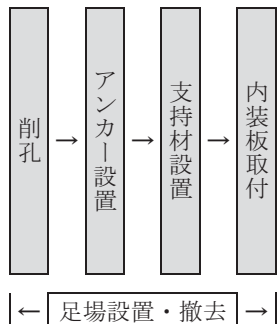
7) トンネル内装板設置工

1. 適用範囲

本資料は、トンネル内装板設置工の側壁用内装板のみに適用する。内装板設置は、削孔、アンカ設置、支持材取付、内装板取付までの作業である。なお、内装板設置面積 500m² 以上に適用する。

2. 施工概要

内装板設置のフローは次のとおりとする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

3. 施工歩掛

内装板設置の歩掛は、次表を標準とする。

表 3.1 トンネル内装板設置歩掛

(100m² 当り)

名称	規格	単位	トンネル内装板設置	
			適用範囲	
			削孔径	12～18mm
			アンカ径	M10～M12
			支持材使用鋼材	形鋼及び鋼板
			1 枚当り質量	25kg 以下
			1 枚当り面積	3m ² 以下
土木一般世話役		人		2.4
特殊作業員		〃		6.3
普通作業員		〃		5.5
諸雑費		%		26

(注) 1. 足場工 (枠組・単管) や高所作業車を使用する場合は、別途計上する。

2. 支持材及び内装板の固定方法は、ねじ止めを標準とする。

3. 諸雑費は、脚立、トラック・フォークリフト・ハンマドリル・インパクトレンチ等の機械損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

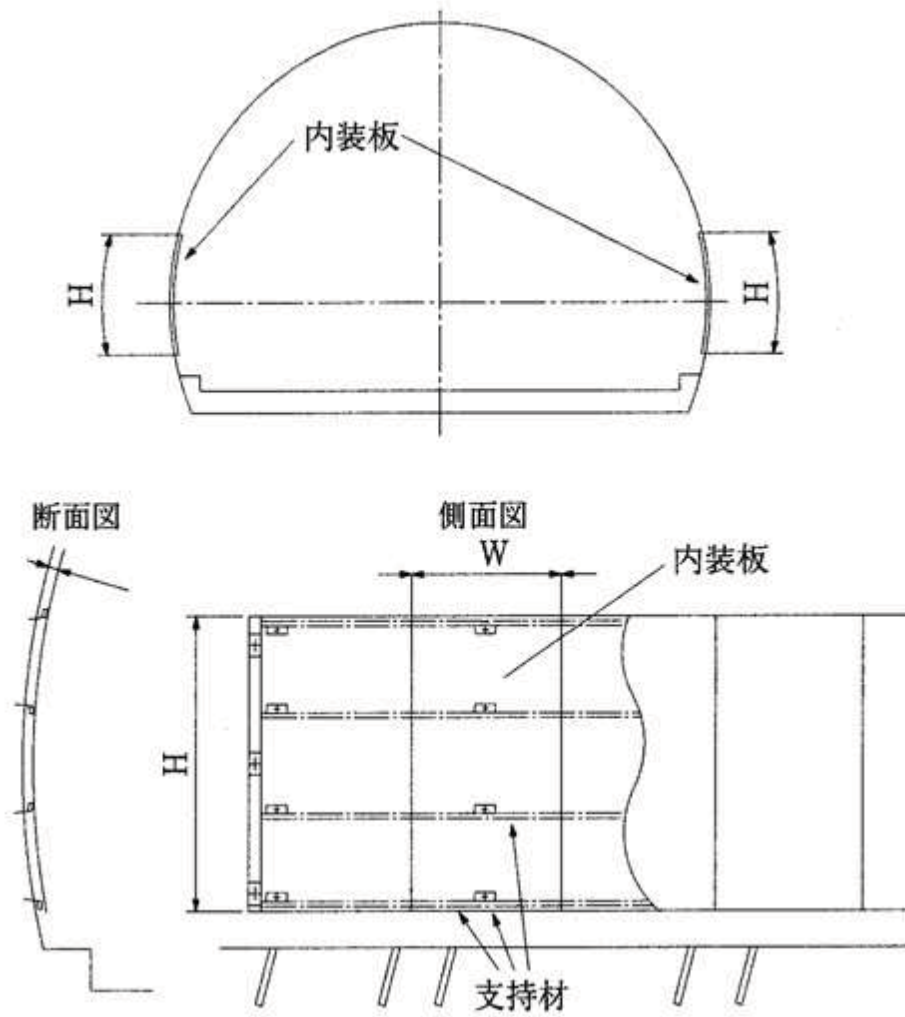
4. 単価表

(1) トンネル内装板設置 100m² 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	2.4	表 3.1
特殊作業員		〃	6.3	〃
普通作業員		〃	5.5	〃
トンネル内装板		m ²	100	
諸雑費		式	1	表 3.1
計				

[参考図]

トンネル断面取付一般図



8) 道路付属物設置工

1. 適用範囲

本資料は、道路付属物工のうち、距離標（百米標，キロ標）の、人力による設置及び撤去作業に適用する。

1-1 適用できる範囲（以下のいずれかの条件に該当する場合）

- (1) 距離標（百米標，キロ標）の設置（材料込みの新設設置）
- (2) 撤去の場合

1-2 適用出来ない範囲

- (1) 接着剤による貼り付けの場合

2. 施工パッケージ

2-1 距離標【SPK14040181】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 2.1 距離標 積算条件区分一覧

(積算単位：本)

作業区分	基礎形式
設置	土中埋込用
	構造物取付用
撤去	土中埋込用
	構造物取付用

(注)1. 上表で土中埋込の場合は、距離標の設置、撤去、床掘り、埋戻し等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料を含む）を含む。

2. 上表で構造物取付の場合は、距離標の設置、撤去、穿孔、プレキャスト基礎、アンカーボルト、電気ドリル損料、電力に関する経費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料を含む）を含む。

3. 基礎の費用は別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 2.2 距離標 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考	
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	距離標 100m 標	設置の場合
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3. 道路付属物の参考図

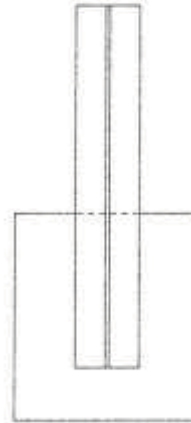
3-1 距離標の設置例

[土中埋込用 (基礎コンクリート付)]

(百米標)

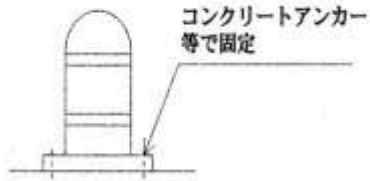


(キロ標)

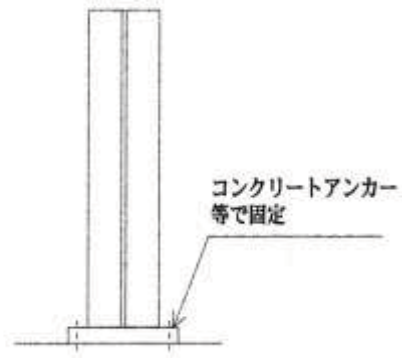


[構造物取付用]

(百米標)



(キロ標)



9) スノーポール設置・撤去工

1. スノーポール設置撤去工

1-1 適用範囲

本資料は、積雪寒冷地の冬期視線誘導対策として、路側等にスノーポールを設置する作業で、単柱を土中に差し込む「土中単柱型タイプ」及び既存の視線誘導標支柱のサヤ管等に単柱を挿入する「挿入型タイプ」の設置及び撤去に適用する。

ただし、かぶせ型タイプ及び二段式デリニエータポール等の引上げには適用しない。

1-2 施工歩掛

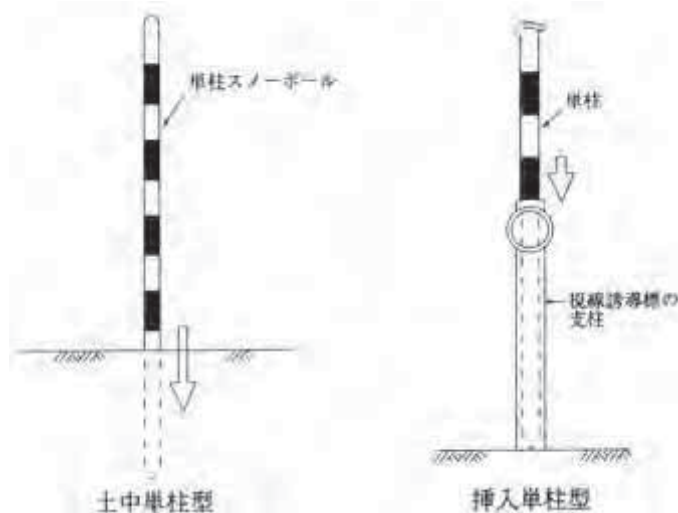
施工歩掛は、次表を標準とする。

表 1.1 スノーポール設置歩掛 (100 本当たり)

名称	規格	単位	数量	
			土中単柱型タイプ	挿入単柱型タイプ
普通作業員		人	10	2
トラック運転	普通型・2t 積	日	1	

- (注) 1. 上表は設置歩掛であるが、撤去の場合も同様の歩掛を適用する。
 2. 上表には、現場内における荷降、荷積及び小運搬を含む。
 3. スノーポールの長さに関係なく上表を適用出来る。

図 1-1 スノーポールの参考図



2. 単価表

(1) スノーポール設置又は撤去 100 本当たり単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表 1.1
スノーポール		本	100	設置の場合必要に応じて計上
トラック運転	普通型・2t 積	日	1	表 1.1
諸雑費		式	1	
計				

(2) 機械運転単価表

機械名称	規格	適用単価表	指定事項
トラック	普通型・2t 積	機-22	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →26 機械損料数量 →1.25

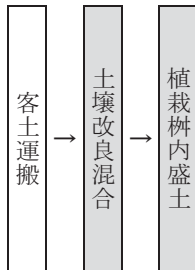
10) 道路植栽工 (客土工) (上層 30cm)

1. 適用範囲

本資料は、道路植栽に先立ち、植栽柵内における土壌改良材の混合及び盛土の単独作業に適用する。なお、植栽作業と同時に施工する場合は「第 VI 編 第 2 章 7) 道路植栽工」によるものとする。

2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

3. 施工歩掛

- (1) 上層 30cm にのみ土壌改良材を混入するものとするが、混入量については上層客土の 20% に相当する容積について改良材を混入するものとする。
- (2) 土壌改良材は原則として、オガール、キノックス、フジミパーク、パークミン、スミリンユーキ、カウレックス F、ツチフトール、セルフミン、ビタソイル、又はそれらと同等品とする。
- (3) 客土工 (上層 30cm) の施工歩掛は、次表とする。

表 3.1 客土工 (上層 30cm) 歩掛

(10m³ 当り)

名称	数量	適用
普通作業員	2.2 人	客土と土壌改良材混合及び植樹柵内盛土
客土	8.0m ³	土代は地山単価
土壌改良材	1000kg	10.0m ³ ×20%×500kg/m ³

(注) 1. 客土については数均し程度とし、C=1 とする。客土単価については地山単価とする。

2. 土壌改良材混合は、上層客土と同時施工する。

3. 植樹と同時に客土を行う場合は、本歩掛は適用しない。

4. 単価表

客土工 (上層 30cm) 10m³ 当り単価表体

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	2.2	表 3.1
客土		m ³	8.0	〃
土壌改良材		kg	1000	〃
諸雑費		式	1	
計 【S3020015】				